

医療機関において 警察OBが果たす役割

互いに手を取り合いながら職員の安全を守るために

病院内での患者トラブルについて、職員の安全を守るための取り組みとして 2004 年から民間病院でも警察 OB が採用されはじめた。その活動内容は本誌通常号連載「職員の安心を支える病院デカ」でも紹介している。採用の流れは少しずつ広がりを見せ、近年では大学病院などだけでなく、中小病院での活躍も報告されている。

その一方で、警察 OB を雇用したのはいいがどのように活動してもらえばいいのかわからない、また本人からどのように活動すればいいのかわからないという声も聞かれ、十分に活躍できずにいるケースも少なくない。

職員が安心して働ける職場をつくるために、彼らにどのような役割を担ってもらえばいいのか、今あらためて考える機会とする。

職員の安全を守るために 652

警察 OB としての役割と今後に向けて 横内昭光

病院における警察 OB 雇用の実態 656

2012 年警察 OB と病院職員の調査結果から 三木明子

[インタビュー] 警察OBを採用している組織から① 662

どこでも安心して医療を提供できる環境をつくりたい

職員、そして患者さんのために組織全体を教育し、変えていく

森山 寛／小路美喜子

[インタビュー] 警察OBを採用している組織から② 666

“警察 OB”ではなく、“豊かな経験をもつひとりの職員”として

組織のニーズに応じた役割を果たしてほしい

十時英二

警察 OB が病院にいる意義 669

弁護士としてみた医療現場の潜在的問題から考える 奥野善彦

スペシャリストとしての警察 OB 673

多様な困難に病院全体で取り組むために 佐藤太郎